

つながり，知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）

～子どもが友だちの表現に「価値」を見い出すことが

できるようにするための教師の働きかけを通して～

音楽科における「つながり，知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

音楽科授業における子どもが「知的な深まりを楽しむ」姿とは、音楽的な見方・考え方を働かせながら、音楽活動を楽しむ姿であると考え。音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」である。音や音楽の美しさなどを感じ取るときの心の働きが感性であり、音楽の授業においては、音楽に対する感性を働かせながら音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る学習活動を積み重ねることが大切である。しかし、音楽を形づくっている要素を聴き取ることは、どの子どもが一度にできるものではない。教師は、子どもの反応を見取り、何を感じ取りどう感じたのかを問いかけ、引き出しながら全体に広げていく。はじめは音楽を形づくっている要素を聴き取れなかった子どもも、友達の気づきや考えに触れると「もう一度聴いてみたい」「要素や特徴を確かめてみたい」と、主体的に音楽に関わろうとする姿がみられるようになる。また、聴き取った音楽の要素や仕組みをつかって音楽をつくる学習においても、音楽づくりの様々な発想やどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつためには、共に学ぶ友達のアイデアに触れたり、互いに思いや意図を伝えあったりしながら、音楽を知覚し、感受することが大切である。このように、子どもと音や音楽、子ども同士がつながり、音楽的な見方・考え方を働かせながら、音楽活動を楽しむ授業が、音楽科における「つながり，知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」と考える。

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

○つなげ方の例を、音や音楽、楽譜や図とともに提示し、音楽的な見方・考え方を働かせながら課題解決の見通しをもたせるようにする。

本時の目標は、2人で旋律をつないで一つの旋律をつくることであるが、単に友達の旋律につなげていくのではない。くり返しや呼びかけとこたえなどの仕組みを使って、つなげ方を工夫することが学習課題となる。その学習課題と向き合ったとき、多くの子どもは「どうすればうまくつながるのかな」と疑問をもつだろう。しかし、一方で既に「リズムをそろえればいい感じになりそう」といった見通しをもっていたり、旋律を聴いて「こうすればよさそう」と直感的にアイデアがひらめいたりする子どももいる。このようにつなげ方についてのアイデアを引き出すために、実際に子どもが前時につくった旋律を提示し、そこにどうつなげればよいかについて子どもに問いかける。そうして、いろいろなアイデアを引き出しながら、実際に音で試し、いろいろなつなげ方があることに気づかせていく。音楽的な見方・考え方を働かせるとは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音を形

作っている要素とその働きの視点で捉えることである。ここでは、つなげ方のよさについて、音や音楽を実際に聴きながら、楽譜や図を参考にしながら音楽の仕組みと関連付けて捉えることが大切である。楽譜や図で音楽の形を視覚的に捉え、音や音楽と合わせてその旋律の特徴をつかませながら、音楽の仕組みを生かしてつなげるとはどのようにすることなのか、耳と目とともに感性を働かせながら考えさせる。そのようにして、「仕組みを生かしたつなげ方をするといいな」「くり返しをつかってまとまる感じのあるつなげ方をしたい」というような思いや意図をもって音楽づくりに向かわせたい。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見い出すことができるようにするための働きかけ

○友達のつなげ方にタイトルをつけて、よさを共有する

つくっている途中で聴き合う場を設定し、くり返しなどの仕組みを生かして、まとまりのある旋律をつくることができているペアを取り上げ、全体に紹介する。その際、友達のアイデアにどんなタイトルがつけそうか話し合い、よさを価値づけ全体に返すようにする。また、見出したアイデアは図でも示し、旋律の特徴やつなげ方について捉えられるようにする。そうすることで、他の子どもがそのアイデアのよさを共有し、自分たちの音楽づくりでも活用しやすくする。このようにして、友達のアイデアのよさを取り入れ、旋律のつなげ方について十分発想を持てていなかった子どもも、その技を使ってみようとする姿につなげていく。

○一つのアイデアだけでつくるのではなく、友達のアイデアも試しながらつくるように促し、いろいろなアイデアのよさに気づけるようにする

再度つくる際には、一つのつなげ方だけでなく、友達のアイデアを参考にして、いろいろなつなげ方を試すように促す。子どもは、旋律ができたならそのことで満足しがちで、何度も同じ旋律を繰り返すことがある。しかし、本時では、つくった旋律のリズムや音を少し変化させるなどして、即興的な表現もできるようにしていく。ペアの友達が、いろいろな旋律をつくることで、それにつなげる子どもも新たなアイデアを試したり、あらたな旋律をつくったりすることができるようになると期待している。学習の最後のふりかえりでは、どのような工夫をしたか、どのような発想をもっていたかについてや、参考になった友達のつくった旋律やアイデアについてもふり返らせ、友達のアイデアのよさについても気づかせたい。

第5学年B組音楽科学習指導案

1. 題材名

沖縄の音階を使って、音楽をつくろう

2. 教材群

『谷茶前』 沖縄民謡

『ハイサイおじさん』 喜納昌吉&チャンプルーズ

3. 指導観

本題材は、音階が生み出す雰囲気や特徴を感じ取りながら、旋律をつくる音楽づくりの題材であり、学習指導要領のA表現(3音楽づくりア (イ) イ (イ) ウ (イ) B鑑賞(1)アイを受けた内容である。本題材では、沖縄地方の民謡に多く見られる琉球音階を使った音楽づくりをおこなう。教材は、沖縄の音楽にみられる音階、リズム、楽器などの特徴が捉えやすい『谷茶前』『ハイサイおじさん』を扱う。

『谷茶前』は、雑踊と呼ばれる舞踊曲であり、沖縄音楽を代表する三線（さんしん）、三板（さんば）などの楽器を用いて演奏される。それらの楽器の旋律にみられる付点のリズム、沖縄方言の歌詞ののびやかな旋律とはやし言葉も、明るく開放的な沖縄らしさを感じさせる。また、アップテンポのポップス調である『ハイサイおじさん』も同様に、楽器、沖縄音階、付点のリズム、はやし言葉などに、沖縄の音楽の特徴がみられる。このようなことから、子どもに沖縄の音楽の特徴や要素をつかませるのに適した題材であるといえる。

本学級の子どもは、ほとんどが音楽の様々な活動に意欲的に取り組み、興味をもって音楽に関わろうとする子どもが多い。しかし、コロナ禍の影響により、鍵盤ハーモニカなどの楽器を使って旋律をつくったり、友達と音楽をつくったりする機会が1年ほど十分にできていないため、音楽をつくる活動に戸惑いや抵抗感をもつことも予想される。

指導にあたっては、はじめに沖縄の音楽の特徴についてつかませる。まず、『谷茶前』を鑑賞する活動を通して、沖縄の音楽を特徴づけている音階やリズム、伝統的な楽器、沖縄方言によるはやし言葉などについて理解させる。また、『ハイサイおじさん』も鑑賞することで、民謡だけでなくポップス音楽でも沖縄の音楽の様々な特徴が活かされていることを捉えさせ、沖縄音楽に対するイメージを広げるようにする。そして、鍵盤ハーモニカを使って、琉球音階の構成音5音を用いた即興的な旋律づくりをおこなう。旋律をつくる活動では、即興的に音楽をつくる活動に戸惑ってなかなか動き出せない子どもがいると予想される。そのような戸惑いや抵抗感を減らすため、琉球音階を用いて旋律をつくる際には、音を線でたどっていけば、旋律の流れができるような図を活用し、一人で作る旋律の長さはあまり長くないように、8拍分とする。そして、その旋律をペアでつなげる活動をおこない、つなげ方を工夫しながら、即興的に旋律を表現できるようにする。さらに、つなぐ音や終わる音を意識しながら、即興的にグループでつなげてつくる活動へと、段階的にステップアップしながら活動を進めていくようにする。

本時は、友達と二人で旋律をつなげてまとまりのある旋律をつくる学習をおこなう。導入では、はじめに『谷茶前』の旋律とリズムについて振り返らせ、音楽づくりで用いる琉球音階の構成音や、沖縄の音楽の旋律やリズムの特徴についておさえておく。また、前時でみつけた「より沖縄音楽らしくするためのコツ」についても触れ、沖縄らしさがある旋律をつくることを意識づける。そして、本時の目標は、2人で旋律をつないで一つの旋律をつくることであるが、単に友達の旋律につなげていくのではなく、つなげ方を工夫するという学習課題をつかませる。ここでは、実際に子どもが前時につ

くった旋律を提示し、そこにどうつなげればよいかについてのアイデアを子どもと話し合いながら、見通しが持てるようにしていく。つなぐ時の旋律の音の動き方の例を、実際に音で示したり、図で表したりして例示する。また、くり返しの仕組みも使ってつなげるとまとまりのある旋律となることにも気付かせたい。例えば、友達の旋律が上行している場合は、どのように旋律をつなぎたくなるかと問いかけ、子どもが発想したアイデアを引き出しつつ、つなげ方についていくつかの例を示す。そうすることで、子どもが「くり返しを使うとうまくできそうだな」「友達が上がった旋律の時は、下がってみたいな」というようにつなげ方の発想をもてるようにしていく。自力解決のときには、まず、例を参考にいろいろなつなげ方を試させ、即興的に表現することに慣れさせていく。そして、つくっている途中で聴き合う場を設定し、くり返しなどの仕組みを生かして、まとまりのある旋律をつくることができているペアを取り上げ、全体に紹介する。その際、友達のアイデアにどんなタイトルがつけそうか話し合い、よさを価値づけ全体に返すようにする。そうすることで、他の子どもがそのアイデアのよさを共有し、自分たちの音楽づくりでも活用しやすくする。このようにして、友達のアイデアのよさを取り入れ、旋律のつなげ方について十分発想を持てていなかった子どもが、その技を使ってみようとする姿につなげていく。再度つくる際には、一つのつなげ方だけでなく、友達のアイデアを参考にして、いろいろなつなげ方を試すように促す。旋律も同じものではなく、つくったものを変化させるなどして、即興的に表現できるようにしていく。最後に、どのような工夫をしたか、どのような発想をもっていたかについてや、自分が参考になった友達のつくった旋律やアイデアについてもふり返らせ、友達のアイデアのよさについても気づかせたい。次時では、さらに沖縄らしくなるよう、打楽器のリズムやかけ声などを加えて、音楽づくりを完成させることを知らせ、授業を終える。





4. 目標

- 沖縄の民謡にみられる音楽の特徴に興味・関心をもち、それらのよさや面白さを感じ取りながら、沖縄の音楽の特徴を理解して聴く。
- 琉球音階を使って旋律や音階の特徴を感じ取りながら、反復や呼びかけとこたえ、変化などの音楽の仕組みを生かして旋律をつくる。

5. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。</p> <p>技思いや意図にあった表現をするために必要な音楽の仕組みを用いて音楽をつくる技能を身につけて音楽をつくっている。</p>	<p>思リズム、旋律、音階、反復など音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ってことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態琉球音階や沖縄の音楽に興味・関心をもち、友達と音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

6. 指導計画（4時間計画）

時	○学習内容	知・技	思	態	
		(評価方法)			
1	○沖縄の民謡を聴き、沖縄の音楽の特徴について話し合う。 ・『谷茶前』を鑑賞する。 ・三線などの沖縄の楽器について知る。 ・『谷茶前』を聴いたり歌ったりして、沖縄の音楽に親しむ。	知  (発言内容・記述)		 (発言内容・記述)	
2	○琉球音階について知り、音階の5音を使った短い旋律をつくる。 ・音階やリズムなどの、沖縄の音楽の特徴をつかむ。 ・鍵盤ハーモニカを使って、8拍分の旋律をつくる。		技  (演奏の聴取)		 (発言内容・記述)
3	○友だちの旋律とつなげ、まとまりのある旋律をつくる。 ・友達がつくった旋律とつなげ方を工夫して旋律をつくる。				
4	○つくった旋律を、つなげたり重ねたりして、自分たちの沖縄音楽をつくる。 ・旋律、パターン、打楽器に分かれて即興的につくる。 ・つくった音楽を発表し、互いの音楽を聴きあう。				

7. 本時の指導

(1) 目標

友達がつくった旋律の特徴を感じ取り、つなげ方を工夫して旋律をつくる。

(2) 評価規準

思 リズム、旋律、音階、反復など音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ってことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。

(3) 展開

学習活動	○教師の働きかけ □評価規準
<p>1. これまでの学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球音階はドミファソシ ・付点のリズム ・パターン <p>2. 本時の課題をつかむ。</p>	<p>○音楽づくりで用いる琉球音階の構成音や、沖縄の音楽の旋律やリズムの特徴についておさえる。</p> <p>○前時で学習した「より沖縄音楽らしくするためのコツ」について触れ、沖縄らしさがある旋律をつくることを意識づける。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">つなげ方を工夫して、まとまりのある旋律をつくろう</div>	

3. 旋律のつなげ方について見通しをもつ。

- ・ただ、つなげるだけではいけないんだな
- ・くり返しを使うといいのかな。
- ・何かコツがありそうだな

4. ペアで試しながら、旋律をつないでつくる。

- ・友達の旋律を少しくり返そう
- ・リズムをそろえよう
- ・上行しているから、ぼくも上行しよう

5. 聴き合う。

- ・リズムが同じで音を変える技を使っているね
- ・同じリズムでくり返して、最後に少し変えているね

6. ペアで旋律をつなげ、即興的な表現を楽しむ。

- ・いろいろなつなぎ方を試してみよう
- ・どちらが先にやるか、交替しながらやろう

7. 本時の学習をふり返る。

- ・〇〇さんの技を使ったら、まとまりのあるつなぎ方ができたよ

○本時ではペアで旋律をつないで一つの旋律をつくることを知らせ、見通しをもたせる

○前時に子どもが前時につくった旋律を提示し、そこにどうつなげればよいかについてのアイデアを子どもと話し合いながら、見通しが持てるようにする。

○友達の旋律が上行している場合は、どのように旋律をつなぎたくなるかと問いかけ、子どもが発想したアイデアを引き出しつつ、つなげ方についていくつかの例を示し、つなげ方の発想をもてるようにしていく。

○旋律の形やくり返しなどの仕組みを使ってつなげるとまとまりのある旋律となることにも気付かせる。

○友達の旋律とどのようにつなぐとよいのか、つなげ方の例を、音と共に図でも示して、つなげ方についての発想をもてるようにする。

○伴奏のリズムに乗って演奏できるよう、リズム伴奏を流して慣れさせる。

○旋律をつなぐアイデアが見出せないペアにはどこかにくり返しを入れるように助言し、まとまりのあるつなげ方を見出せるように支援する。

○ついている途中で聴き合う場を設定し、くり返しや呼びかけとこたえなどの仕組みを生かしたり、意図や思いをもって表現したりしているペアを取り上げ、発表させる。

○どのようなつなげ方のアイデアを使っているかに留意しながら、友達の発表を聴くようにさせ、友達のアイデアのよさを見つけられるようにする。また、そのアイデアにどんなタイトルをつけることができるか話し合い、そのアイデアのよさを共有させる。

○一つのつなげ方だけでなく、友達のアイデアを参考にして、いろいろなつなげ方を試すように促す。

○旋律も同じものではなく、つくったものを変化させるなどして、即興的に表現できるようにしていく。

思リズム、旋律、音階、反復など音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ってことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(発言内容・記述)

○どのような工夫をしたか、どのような発想をもっていたかなどについてふり返らせる。

○自分が気づいた友達のつくった旋律やアイデアのよさ、自分が参考になったことについてもふり返らせる。